

# 03 地理学専攻

# Geography

## (1) 修士課程

### ● 目的

地理学専攻は、本学建学の理念に基づき、学部等の教育を基礎として高度な専門的教育を行い、大学・研究機関の研究者、豊富な専門知識を必要とする教員・専門職従事者を養成することを目的とする。

### ● 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

地理学専攻は、専攻の教育理念に基づき定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の必修科目・選択科目の単位を修得し、修士論文審査に合格した者に対して「修士(地理学)」の学位を授与する。課程修了者は、高度な専門知識と問題解決能力を有し、専門知識を必要とする指導的立場の教員や専門職従事者として社会に貢献できる人材となる。修士論文の基準については学位審査基準に明記する。

DP：ディプロマ・ポリシー

	専門分野の知識や技能の活用力
(DP1)	専門分野に関する高度専門的な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、実際に直面する状況・課題に対して臨機応変に対応するだけでなく、積極的に新たな価値を創造・提案し、地域社会・国際社会・産業界に還元していくことができる。
	情報分析、課題設定及び問題解決能力
(DP2)	基礎的な知識や先行研究を踏まえ、自ら主体的に課題を設定する力と、さらに高度な専門的な情報を収集・分析して適正に判断・思考しながら、問題解決までの道筋を論理的に展開できる実行力や新たな知見を見出す能力を兼ね備えている。
	コミュニケーション能力
(DP3)	フィールドワーク、論文作成、プレゼンテーション等を通じて、自らの考えを論理的かつ明確に伝えると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて世界に向けて自らの考えを発信することができる。

### ● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

地理学専攻修士課程においては、指導教員の演習8単位、選択科目22単位以上を履修する。1年次には、専門分野及び関連分野の高度な知識を、講義・演習・実習により修得する。同時に、文献講読・資料調査・予備調査を実施し、演習での議論を通じて、研究課題の理論的・実践的基盤を形成する。2年次には修士論文の作成を目的とし、調査計画の立案・調査の実施・データ分析・論文執筆の各段階で、綿密な議論を繰り返し、完成度の高い修士論文を作成する。科目の履修にあたっては、法政大学・明治大学・専修大学・国士舘大学・日本大学の各大学院の地理学専攻との間で単位互換制度を設けており、他大学院の専門研究者の科目も履修できる。

さらに、研究における不正行為が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

#### 1. 教育内容

- 1) 講義科目は、地理学専門分野の学部基礎教育を修得していることを前提に、地理学における専門基礎力及び学術研究動向を理解し、研究を遂行するための理論的・技術的基盤を築くことを目的として開講する。
- 2) 演習科目は、修士論文の作成上必要とされる様々な研究指導を、きめ細かに行うために開講する。
- 3) 実習科目は、研究遂行のために必要な分析・解析技術の修得とフィールドワークの経験を積むことを目的として開講する。
- 4) 1～3の集大成として修士論文を完成させ、それについて、発表、審査及び最終試験を実施する。

#### 2. 教育方法

- 1) 講義科目は、少人数での個別・グループ形式で行う。学生は、指導教員及び各自の研究テーマに特に関連する教員の講義科目を選択して履修する。
- 2) 演習科目は、主として指導教員から指導学生に対しての研究指導という形で行う。学生は、指導教員と密接なコミュニケーションを取りながらこの科目を履修する。
- 3) 実習科目は、教員が定めた実際の研究テーマに対し、研究計画立案、研究の実施、報告書の作成等、研究の一連の流れに基づいて指導を行う。
- 4) それぞれの授業科目を、組織的に履修することにより、専門性を追求しながらも狭量な思考に偏らないよう、指導教員を中心に指導を行う。
- 5) 修士論文の審査にあたっては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力を身につけていることを詳細

を確認する。

- 6) 研究倫理教育は、研究科・専攻に拠らない一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、指導教員を通じて指導することにより補完する。
- 7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生ヘフィードバックを行う。

### 3. 評価

地理学専攻修士課程では、人文科学研究科の定める評価方法に基づいて学修成果の評価・測定を行う。その中でも特に、最終成果の測定方法として修士論文の質を重視する。

#### ● 修了の要件

1. 修士課程に2年以上在学し、30単位以上修得し、かつ、必要な研究指導を受けたうえ、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 各年次の履修単位数は、原則として1年次は指導教員の演習4単位を含む20単位以上30単位未満とし、2年次は指導教員の演習を含む4単位以上とする。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の演習4単位	22単位以上	30単位以上
2年次	指導教員の演習4単位		

#### ● 履修上の注意

1. 履修科目の選択にあたっては、指導教員の指導を受け、研究テーマに関連の科目を履修すること。
2. 指導教員が必要と認めた場合には、指導教員以外の演習科目の中から10単位、他専攻の講義科目の中から4単位を上限に履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。
3. 指導教員が必要と認めた場合は、交流協定校〔学生交流協定(他大学大学院及び大学共同利用機関履修) <P.20>〕の授業科目を履修することができる。
4. 他専攻修得単位・他大学大学院修得単位・協定(認定)校留学により修得した単位は合計10単位を上限として、修了に必要な単位として認定することができる。
5. 他系統学部出身者には、当該専攻の基礎学部出身者と同等の基礎学力を充足させるため、大学院の正規授業科目以外に指導教員が必要と認めた場合、学部で開講している関連基礎科目(指導教員の指定する科目)の特別履修を課すことがある。ただし、関連基礎科目の単位は認定しない。
6. 一度単位を修得した科目は、担当者が異なっても再度履修することはできません(指導教員の演習科目を除く)。

#### ● 学位論文について

##### 〈中間発表・報告会〉

修士2年次の9月に中間発表会、修士2年次の1月に公聴会を専攻全体で行う。発表時間は20分、その後10分程度の質疑応答を参加者全員により行う。講評は後日、指導教員から口頭で行う。

##### 〈学位論文審査基準〉

1. 研究課題の学問的な意義と独創性
2. 既往の研究に対する検討の適切性
3. 研究方法と資料の適切性
4. 研究結果に基づく考察・結論の妥当性
5. 論文構成・論理構成の整合性
6. 文章表現及び図表表現の適切性

##### 〈論文審査・学識確認〉

審査員は、主査1名、副査2名で構成され、副査には必要に応じて他の専攻、大学、研究所などに所属する専門家を含むことがある。最終試験は、提出された論文を踏まえ、審査員が、口頭試問形式により学識確認を行う。研究内容に関する学問的背景の学識と研究のオリジナリティを重視する。主査・副査の選出は専攻会議にて行う。上記審査基準により、主査・副査が点数を付け、その平均点をもって修士論文の評点とする。成績評価は履修科目と同様の基準で付される。

なお、論文作成要領・提出要領と、提出された論文の取扱いについては、21ページ以降を参照すること。

● ルーブリック【修士論文・課題研究】

DP	評価項目	評価の視点	S	A	B	C
(DP1) (DP2)	1) 研究主題の 設定理由・ 目的の明確性	発展可能性	より重要な研究へと発展することが確実なテーマである	より重要な研究へと発展することが可能なテーマである	より重要な研究へと発展する可能性の有無についてははっきりしない	より重要な研究への発展する可能性の見込めないテーマである
		目的の明示	研究の目的が明確に述べられており、その目的のために当該研究で何をどう進めていくのかというプランも明確にされている	研究の目的は述べられており、その目的を達成するためにどのように進めていくのかもほぼ明らかである	研究の目的はおおよそ述べられているが、その目的を達成するためにどのように進めていくかはやや不明確である	研究の目的が明確には述べられていない
(DP1)	2) 研究の社会的意義・ 貢献性	研究の社会的意義・貢献性	現代社会、国際社会における課題の解決や理解の深化に直接関連するテーマを設定している	現代社会、国際社会における課題の解決や理解の深化に関連するテーマを設定している	現代社会、国際社会における課題の解決や理解の深化にほとんど関連しないテーマを設定している	現代社会、国際社会における課題の解決や理解の深化とは無関係なテーマを設定している
(DP2) (DP3)	3) 研究の主体性・ 独自性	独自性	関連する先行研究を網羅した上で、当該論文のテーマが独創的であることが明確に示されている	関連する先行研究に当該論文と類似するテーマがないわけではないが、独自性を有すると認められる	すでにほぼ同様のテーマの先行研究があるが、独自性を有するとも言える	すでに、同様のテーマの先行研究が存在しており、独自性は認められない
(DP2) (DP3)	4) 研究方法論の 適切性・妥当性	計画・準備	指導教員との協議を通して研究計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するか明確である	指導教員との協議を通して研究計画書を作成し、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかほぼ明確である	指導教員との協議を通して研究計画書を作成したが、研究レビュー、データ収集、分析、執筆など具体的な活動をいつ実施するかやや不明確である	いつ何をどこまで進めるか研究計画が立てられていない
		研究倫理	研究に関わる倫理上の問題について、大学が指定した研究倫理eラーニングを受講し、十分に考慮し、必要な対応を済ませた上で、研究活動を行っている	研究に関わる倫理上の問題について、大学が指定した研究倫理eラーニングを受講し、十分な考慮と必要な対応を行いつつ、研究活動を行っている	大学が指定した研究倫理eラーニングを受講したが、研究に関わる倫理上の問題への考慮・対応が十分とはいえない	大学が指定した研究倫理eラーニングを受講しておらず、研究に関わる倫理上の問題について検討していない
		研究方法の適切性	研究目的を達成するために最もふさわしいと考えられる研究方法を選択している	研究目的を達成するのに適していると考えられる研究方法を採用している	研究目的を達成するのにふさわしい研究方法であるかやや疑問である、あるいは他にさらに適当な方法が存在している	研究目的と研究方法が合致していない
(DP2) (DP3)	5) 引用された文献・資料の 十分性・適切性・妥当性	データ・資料の量	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分適合する量のデータ・資料を収集している	研究目的を達成するために選択した研究方法、分析方法を実施するのにほぼ十分な量のデータ・資料を収集している	データ・資料を収集しているが、選択した研究方法、分析方法を実施するのに十分な量とはいえない	収集した量のデータ・資料では、選択した研究方法、分析方法を実施できない
(DP2) (DP3)	6) 結果考察の妥当性	結果の表現	結果を適切に表現するために、適切な図表等が作成・配置されている	結果を適切に表現するために必要な図表等がおおよそ作成されており、ほぼ問題なく配置されている	結果を表現するために図表等が用いられているが、必要とはいえないものや冗長なものがあったり、ないために理解しにくい箇所がある	結果を表現するために必要な図表等がほとんど作成されていない
(DP2)	7) 論旨の一貫性・連続性・論理性	結果の解釈とまとめ	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。予想や仮説に一致しない結果も重要な結果として捉えている	参考資料や得られたデータに基づいて客観的で公平な解釈をおこなっている。予想や仮説に一致しない結果は例外として処理している	結果の解釈そのものに歪曲はないが、一部に予想や仮説に一致した点だけを結果として捉えている箇所がある	予想や仮説に一致する結果だけを報告している、あるいは結果の解釈に一部歪曲が認められる
(DP2)	8) 当該専門分野における 先行研究の成果を 十分に踏まえているか	成果の水準	当該分野において、これまで解決できなかったことを解決する知見、あるいは新しい事象の発見を参考資料や得られたデータに基づいて提供している	当該分野において有意義な知見や発見を参考資料や得られたデータに基づいて提供している	得られた知見が、当該分野において有意義なものといえるかどうか、やや疑問が残る	当該分野において有意義な知見が得られたとはいえない
(DP3)	9) 独自の研究成果が学術論文の形式でまとめられているか	記述法・ルール	論文の本文は学術的な記述法で書かれ、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定に従って書かれている	論文の本文は学術的な記述法で書かれ、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定にもほぼ従っている	論文の本文は学術的な記述法で書かれたというには不十分であり、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定に従っていない部分がある	論文の本文は学術的な記述法で書かれておらず、当該分野の学会で一般的に利用されている執筆規定にも従っていない

第一章  
第二章  
第三章  
仏教  
国文  
英米文学  
地理  
歴史  
社会  
心理  
経済  
商  
公法  
私法  
経営  
診療放射線  
年度前入学者 GM2021  
年度前入学者 GM2022  
第四章

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
地理学特講Ⅰ	講義	4	通年	小田 匡 保	◎	○		
地理学特講Ⅰ	演習	4	通年	小田 匡 保	◎	○		
地理学特講Ⅱ	講義	4	通年	鈴木 重 雄	◎	○		
地理学特講Ⅱ	演習	4	通年	鈴木 重 雄	◎	○		
自然地理学特講Ⅰ	講義	4	通年	鈴木 毅 彦	◎	○		
自然地理学特講Ⅱ	講義	4	通年	鈴木 秀 和	◎	○		
自然地理学特講Ⅱ	演習	4	通年	鈴木 秀 和	◎	○		
自然地理学特講Ⅳ	講義	4	通年	平井 幸 弘	◎	○		
自然地理学特講Ⅳ	演習	4	通年	平井 幸 弘	◎	○		
人文地理学特講Ⅰ	講義	4	通年	西山 弘 泰	◎	○		
人文地理学特講Ⅰ	演習	4	通年	西山 弘 泰	◎	○		
人文地理学特講Ⅱ	講義	4	通年	瀬戸 寿 一	◎	○		(本年度休講：在外研究)
人文地理学特講Ⅱ	演習	4	通年	瀬戸 寿 一	◎	○		(本年度休講：在外研究)
人文地理学特講Ⅳ	講義	4	通年	王 尾 和 寿	◎	○		
地誌学特講Ⅰ	講義	4	通年	高橋 健太郎		◎	○	
地誌学特講Ⅰ	演習	4	通年	高橋 健太郎		◎	○	
地誌学特講Ⅲ	講義	4	通年	小野 映 介		◎	○	
地誌学特講Ⅲ	演習	4	通年	小野 映 介		◎	○	
地図学特講Ⅰ	講義	4	通年	田 中 靖		◎	○	
地図学特講Ⅰ	演習	4	通年	田 中 靖		◎	○	
地域文化研究特講Ⅱ	講義	4	通年	須山 聡		◎	○	経済地理学特講(経済学専攻)と合併
地域文化研究特講Ⅱ	演習	4	通年	須山 聡		◎	○	
地域環境研究特講Ⅱ	講義	4	通年	平野 淳 平		◎	○	
地域環境研究特講Ⅱ	演習	4	通年	平野 淳 平		◎	○	
地域調査特講	講義	2	前期	須山 聡	○		◎	
地域評価特講	講義	2	後期	須山 聡	○		◎	
フィールドワーク	実習	2	前期	須山 聡		○	◎	

◎：特に重視している ○：重視している

## (2) 博士後期課程

### ● 目的

地理学専攻は、本学建学の理念に基づき、大学院修士課程修了者、あるいはそれと同等の能力があると認められる者に対して研究指導を行い、地理学のより高度な専門的知識、調査・研究能力を身につけた研究者・専門職従事者を養成することを目的とする。

### ● 修了認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

地理学専攻は、専攻の教育理念に基づき定められた下記の3つの能力を身につけ、所定の必修科目の単位を修得し、博士論文審査に合格した者に対して「博士(地理学)」の学位を授与する。学位取得者は深遠な世界観・学問観と高度な専門知識を有し、新たな知の確立を模索する人材となる。博士論文の基準については学位審査基準に明記する。

DP：ディプロマ・ポリシー

(DP1)	高度な専門分野の知識や技能の活用力
	専門分野に関する高度専門的な学識と、幅広い知見を身につけている。また、それらを総合的に活用する汎用性を発揮し、専門分野における先導者として、地理学を軸として、広く社会に向けて新たな知見や価値を創造・提案し、還元していくことができる。
(DP2)	情報分析、課題設定及び問題解決能力
	自立した研究者として、独創的な観点から課題を設定し、専門的な学識や技能を用いながら継続的な研究遂行と研究結果の蓄積・収れんを行うことができる。また、最先端のツールや手法を駆使し、専門情報を収集するだけでなく、それらの分析によって、今までにない知見を導き出すことのできる高度な判断力を有する。
(DP3)	コミュニケーション能力
	学術論文執筆や学会発表などを通じて、自らの独創的な研究結果や新たな知見を国内外の学界に発信すると同時に、他者の考えと価値観を尊重しつつ、専門的な知見から論理的に意見を述べるなど、主体的に協働することができる。また、研究倫理を踏まえ、適切な方法やツールを用いて自らの研究業績を発信し、自ら導き出した新知見の社会的な活用や定着を模索することができる。

### ● 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

地理学専攻博士後期課程においては、指導教員の講義12単位及び研究指導を履修する。既往の研究を批判的に検討するとともに、自らの研究蓄積をその中に位置づける。これを基本として視野の広い研究計画を構想する。さらに課題達成のための方法論を立案し、調査及び分析を実行する。これらの蓄積の集大成として博士論文を作成する。以上のプロセスを講義及び研究指導における教員との議論、国内・国外学会での発表と討論、専門学会誌への論文投稿によって推進する。

さらに、研究における不正行為が行われないよう、カリキュラムの全ての要素の中で研究倫理に関する意識の醸成を図る。

教育内容、教育方法、評価については下記に定める内容に従う。

#### 1. 教育内容

- 1) 講義科目では、個々の研究分野における専門知識の基礎が修得できていることを前提に、最新の学術研究動向を理解し、研究を遂行するための教授と指導を行う。
- 2) 研究指導科目では、専門領域・研究課題に応じて博士論文作成上必要とされる指導や議論を繰り返すことにより、緻密な研究指導を行う。

#### 2. 教育方法

- 1) 講義科目では、豊かな専門知識と発展的な研究能力を深化させ、少人数又は個別形式で授業を行う。
- 2) 研究指導では、課題設定の独創性、研究計画の妥当性や現実性について、指導教員から客観的に評価・助言を行う。さらに、学術論文の執筆指導や学会発表の指導を行い、博士論文作成に向けて研究業績を積み上げる。
- 3) 研究指導を中心とする、博士論文の作成指導においては、教員と学生の間で「提出要件」、「学位授与の方針」及び「学位論文審査基準」を共有し、密接なコミュニケーションを取りながら実施する。
- 4) 講義科目と研究指導科目は単独に行うのではなく、有機的な関連をもって各学生の研究活動を支える。
- 5) 博士論文の提出については、指導教員が研究の進捗状況だけでなく、地理学専攻が定める「提出要件」を満たしていることを確認する。提出された博士論文の審査にあつては、主査1名と副査2名以上で構成される審査委員により、「学位論文審査基準」に則り厳格な審査がなされる。最終試験においては、「学位授与の方針」に基づき、学位授与に必要とされる専門的な学識、技能、研究能力、語学力を身につけていることを詳細に確認する。
- 6) 研究倫理教育は、研究科・専攻に抛らない一般的な内容についてはeラーニングなどの方法を用いて広く提供し、各専門分野特有の研究倫理については、研究者として自立して研究を遂行できるよう、研究指導を通じて補完する。
- 7) 学生調査・アンケート等の結果に基づく客観的な評価指標によって全学的な検証を行い、検証結果を教育内容や教育方法の改善へ積極的に活用し、学生へフィードバックを行う。

#### 3. 評価

地理学専攻博士後期課程では、人文科学研究科の定める評価方法に基づいて学修成果の評価・測定を行う。その中でも特に、最終成果の測定方法として博士論文の質と在学期間中の研究業績を重視する。

## ● 修了の要件

1. 博士後期課程に3年以上在学し、かつ、所定の科目(指導教員の講義)について12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえ、博士論文を提出してその審査及び最終試験に合格しなければならない。
2. 指導教員の講義と研究指導は、毎年履修すること。

年次	必修科目	選択科目	合計
1年次	指導教員の講義 4単位及び研究指導	任意	12単位以上
2年次	指導教員の講義 4単位及び研究指導		
3年次	指導教員の講義 4単位及び研究指導		

## ● 履修上の注意

指導教員が必要と認めた場合は、選択科目として指導教員以外の講義を履修することができる。その場合は、その科目の担当教員の承諾を得ること。

## ● 学位論文について

### 〈中間発表・公聴会〉

2年次の9月に中間発表会、博士論文提出年次の1月に公聴会を専攻全体で行う。発表時間は30分、その後10分程度の質疑応答を参加者全員により行う。講評は後日、指導教員から口頭で行う。

### 〈学位論文提出要件〉

1. 所定の時期に仮論題を提出し、受理されていること。
2. 原則として、博士論文のテーマに関して、査読制度を伴う学術雑誌掲載論文を含む複数の公刊論文があること。

### 〈事前審査〉

提出前に指導教員による事前審査を行う。

### 〈学位論文審査基準〉

1. 研究の背景をなす地理学観の確立
2. 学界及び社会一般に対する学術上の貢献
3. 研究課題の学問的な意義と高度の独創性
4. 既往の研究に対する広範囲かつ深い検討とその適切性
5. 研究方法と資料の適切性
6. 研究結果に基づく考察・結論の妥当性
7. 論文構成・論理構成の整合性
8. 文章表現及び図表表現の適切性

### 〈論文審査・学識確認〉

審査員は、主査1名、副査2名以上で構成され、副査には必要に応じて他の専攻、大学、研究所などの専門家を含むことがある。主査・副査の選出は専攻会議にて行う。上記の基準により、論文審査を実施する。最終試験は、審査員が、提出された論文に基づき、口答又は筆答による学識確認を行うが、研究内容に関する学問的背景の学識と研究のオリジナリティを重視する。外国語試験は予め申請した1か国語(母語は不可)で実施する。審査結果は、研究科委員会において報告される。

なお、論文提出要領等については、25ページ以降を参照すること。

● 開講科目

科目名称	学習方法	単位数	開講期間	担当者	DPとの関連性			備考
					DP1	DP2	DP3	
地理学研究指導Ⅰ	研究指導	—	通年	小田 匡保	◎	○	○	
地理学特殊研究Ⅰ	講義	4	通年		○	○	◎	
地理学特殊研究Ⅱ	講義	4	通年	鈴木 重雄	◎	○	○	
地理学研究指導Ⅱ	研究指導	—	通年		○	○	◎	
自然地理学特殊研究Ⅰ	講義	4	通年	平野 淳平	◎	○	○	
自然地理学研究指導Ⅰ	研究指導	—	通年		○	○	◎	
自然地理学特殊研究Ⅱ	講義	4	通年	平井 幸弘	◎	○	○	
自然地理学研究指導Ⅱ	研究指導	—	通年		○	○	◎	
自然地理学特殊研究Ⅲ	講義	4	通年	鈴木 秀和	◎	○	○	
自然地理学研究指導Ⅲ	研究指導	—	通年		○	○	◎	
地誌学特殊研究Ⅰ	講義	4	通年	小野 映介	◎	○	○	
地誌学研究指導Ⅰ	研究指導	—	通年		○	○	◎	
地誌学特殊研究Ⅱ	講義	4	通年	高橋 健太郎	◎	○	○	
地誌学研究指導Ⅱ	研究指導	—	通年		○	○	◎	
地誌学特殊研究Ⅲ	講義	4	通年	須山 聡	◎	○	○	
地誌学研究指導Ⅲ	研究指導	—	通年		○	○	◎	
地図学特殊研究	講義	4	通年	田中 靖	○	◎	○	
地図学研究指導	研究指導	—	通年		○	○	◎	

◎：特に重視している ○：重視している